

【研究主題】 もっと楽しい!もっとステキな!教室・学校を目指して

【副題】 ~安心して考えや意見が言える授業づくり~

【学校名】 東近江市立山上小学校

## 1 本校の概要

本校は、緑豊かな鈴鹿の山懐にある小規模校である。地域柄、学校に協力的な方々が多く、子どもたちをおおらかに見守ってくださっている。しかしながら、子どもたちはずっと人間関係が変わらず、少しの状況変化でストレスを受けやすい状況にあり、自己肯定感や自己有用感が低い傾向にある。総じて、積極的・発展的に対話を広げコミュニケーションをとろうとする力が弱い。加えて、主体的に学びに取り組む姿勢や、根気強く学びに向かう習慣が定着していないことにより、学力に課題がある。「子どもたちの生きる力をはぐくみ、本校の課題に気づき協力して生活を良くしようとする心を育てる」ことが子どもたちの生きる力を構築し、学習環境を底上げすることにつながると考え、今年度は「特別活動」を中心とした研究をスタートさせた。

## 2 取り組んだ内容

### (1) 集会活動の復活

コロナ禍で失ったものの一つが集会活動である。特別活動は、通常の学習活動の過程と同じように、意見交換や方向性、活動をアウトプットできる場が必要だと考えた。新年度が始まってすぐに今年度は集会を復活させることを知らせ、「誰もが良いと思うことを実現できる場」であり、同時に「みんなで楽しい時間を共有」することを意識付けした。児童会執行部を中心に、集会の名前をみんなで決め、手作りの集会で学校の誰もが発信できる場を形作っていった。



### (2) 各委員会・学級への投げかけ

各委員会には、「学校を良くする」ことを基本に、企画・発信・運営・振り返りができるようにサポートしていった。各学級には、個人であれ学級であれ、学校の課題を見つけて方策を提案したり、学級で学習したこと

を全校へ発信したりすることができるとした。いずれも、発信の舞台は主に集会であり、発表は割り当てではなく内発的動機付けによるものをすべてとした。っ経験が無いので心配する向きもあったが、予想に反し、どの回も子どもたちの主張が多く、集会の時間がオーバーし調整しなければならないほどの盛況となった。

### (3) キャラクター総選挙

学校教育活動支援事業で資金をいただいたので、子どもたち自身が



足跡として肯定的に受け取れる形あるものを残したいという願いがあった。子どもたちからデザインを募集し、執行部が中心となり、愛される山小キャラクターを生み出し、山小児童会のシンボルを作った。

### (4) 学び方を学ぶ・生き方を学ぶ

各学級では、主に学級会を中心に話し合い活動を進めてきた。結果としてより良い結論を得ようとするには、「知識・技能」も、「思考力・判断力・表現力」も、「学びに向かう力、人間性等」も必要になってくる。持てる力を総動員し、他人事ではなく、その人の立場を考え、自分や相手の生活を見直していくことが必要である。特別活動を通し、学び方の基礎、生き方の基礎を会得していくことになると考え、学習活動をリンクさせるような授業改善を進めていった。

## 3 活動の成果

「人間関係の育成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点に基づき、育成すべき資質能力の明確化を図り、経験浅い教師にもわかりやすい授業改善ができたと考えている。学習活動では意気消沈していた子が、学級会の司会等の役割を通し、意外な力を発揮することがあるのに驚いた。子どもたちは以前よりも柔和になり、「学校を良くするために」を考え行動する中で自己有用感が構築されてきているのが見て取れる。

本校の特別活動は歩き出したばかり。次年度以降の活動を充実させるため、研鑽を積んでいきたい。